

先輩支える団塊世代

65歳以上300万人超え

ビートルズを愛し、高度成長を支えた団塊の世代(1947~49年生まれ)が高齢期を迎え、65歳以上人口が初めて3千万人を超えました。「4人に1人が高齢者」という社会を生き抜くため、何ができるか。元気な高齢者が同じ高齢者を手助けする。いわば「高高齢支援」が広がっています。

介護現場ひっぱりだこ

年の功でよき理解者に

「お年寄りを抱きかかえて介護するのは難しくても、年相応にできる仕事はある」

9月から介護施設で働き始めた東京都世田谷区の竹村百世さん(64)はそう話す。送迎や話し相手など仕事は幅広い。若い職員に体力では勝てないが、戦時中の出来事、昔の歌といったお年寄りの話題についていける。高齢者はわずかの衝撃で体が痛むことも、「年の功」でわかる。

1948年生まれ。大手百貨店を退職した後、年金だけ

では心もとななく、パートを続けてきた。今年6月、高齢者を介護施設に派遣・紹介する人材会社「かい援隊本部」(東京)を知り、登録した。「若い人だけで多くのお年寄

りを支えなければならぬ未来は悲しい。できるだけ同世代で面倒を見合う社会にならない」と話す。

同社は介護スタッフとして60歳から77歳までの約110人が登録する。人手不足の介護の現場。「高齢者の力を使った新しい働き方で変えたい」と、新川政信会長(61)が起業した。

現役世代と同じペースで働くのではなく、週2、3日程度で働く人が多い。仕事は、洗濯などの生活支援や病院の付き添いを中心。それでも介護の現場からは「明日にでも来て欲しい」という要請が相次いでいるという。

